

[年度] 令和元年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 業務用ナバナの有望品種の選定と適正な栽植密度

[担当機関名] 農業試験場栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

本県では業務用ナバナとして‘寒咲21号’が広く栽培されていますが、需要期（2月～3月上旬）に安定した収量が得られないことから、新たな品種の導入が求められています。そこで、‘寒咲21号’より収量性の高い品種を選定するため品種比較試験を行いました。また、反収の増加を目的に株間を変えた栽植密度試験を行いました。

[研究の成果]

1. 対照の‘寒咲21号’より規格品総収量が多かったのは、‘CR栄華’と‘CR花かんざし’でした。‘CR栄華’は需要期となる2月に収量が多く、‘CR花かんざし’は規格外品（図1参照）の発生が少ないことから、有望品種に選定しました（表1）。
2. ‘CR栄華’、‘CR花かんざし’ともに、株間が広いほど1株あたりの規格品本数が増加し、それに伴い規格品収量が増加しましたが、面積あたりの規格品収量は株間35cmでやや多くなりました（表2）。
3. 規格外品の発生は、株間が及ぼす影響について一定の傾向が見られませんでした。また、‘CR栄華’は‘CR花かんざし’と比べてアントシアン着色による規格外品が多く発生しました（表3、図1）。
4. ‘CR花かんざし’は‘CR栄華’と比べて収穫時期が数日前進傾向でした（図2）。そのため、両品種を組み合わせることで、収穫労力の分散が可能であると考えられました。

表1 品種および時期別の収量

品種	規格品収量 (g / 株)				規格外品 収量 (g / 株)	草丈 (cm)
	総収量	1月	2月	3月		
CR栄華	363	27	118	218	29	71
CR花かんざし	365	100	74	192	3	63
CR華の舞	291	4	70	216	11	75
花娘	306	13	99	193	34	76
寒咲21号(対照)	353	115	47	191	33	56

定植日：平成29年10月10日、畝幅100cm、株間35cm、一条植え

草丈は平成30年3月26日に調査

表2 品種および株間別の収量

品種	株間 (cm)	1株あたりの収量			面積あたりの 規格品収量 (kg / 10a)
		規格品本数 (本)	規格品量 (g)	規格品1本の 重さ (g)	
CR栄華	35	78	413	5.3	1180
	40	83	450	5.4	1125
	45	94	507	5.4	1125
CR花かんざし	35	72	408	5.7	1164
	40	77	447	5.8	1117
	45	88	500	5.7	1111

定植日：平成30年10月16日、畝幅100cm、一条植え

表3 品種および株間別の規格外品収量

品種	株間 (cm)	規格外品収量(g/株)				
		総計	白化 ^z	アントシアン ^y	腐敗 ^x	その他
CR栄華	35	37.0	12.3	18.2	6.5	0.0
	40	32.7	12.2	17.6	2.5	0.3
	45	46.7	18.8	21.1	5.9	0.9
CR花かんざし	35	9.0	6.6	0.0	0.7	1.7
	40	11.5	7.6	0.4	3.6	0.0
	45	9.3	5.2	0.8	1.4	1.9

栽培概要は表2参照

z: 白化...花蕾の枯死による白化

y: アントシアン...花蕾および茎葉へのアントシアン着色

x: 腐敗...花蕾の腐敗



図1 ナバナ収穫物

1:規格品、2:白化、3:アントシアン、4:腐敗

(詳細は表3脚注参照)

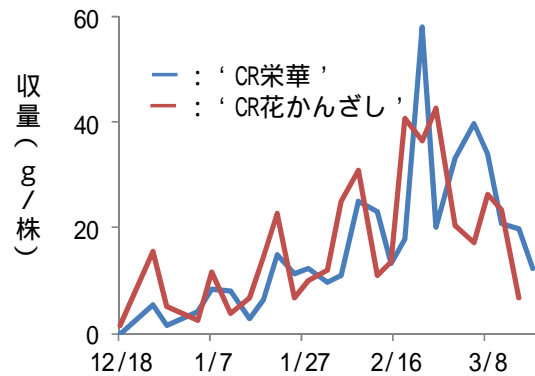


図2 品種および時期別の規格品収量(株間35cm)
栽培概要は表2参照

[成果のポイントと活用]

1. 'CR 栄華' と 'CR 花かんざし' が '寒咲 21 号' に代わる品種として有望です。'CR 栄華' は2月の収量増加、'CR 花かんざし' は秀品率の向上が期待できます。
2. 'CR 花かんざし' は 'CR 栄華' と比べて収穫時期が数日早くなります。'CR 花かんざし' を 'CR 栄華' より2~3日早く播種・定植し、組み合わせて栽培することで、より高い収穫労力の分散効果が期待できます。
3. 'CR 栄華'、'CR 花かんざし' とともに、'寒咲 21 号' より草丈が高いため、収穫作業はしやすいですが、強風による倒伏には注意が必要です。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業「業務用野菜キャベツ・ハクサイ・ナバナの安定生産技術開発」）

研究機関：平成 29～令和元年

研究担当者：嶋本 旭寿、橋本 真明

発表論文等：なし